

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

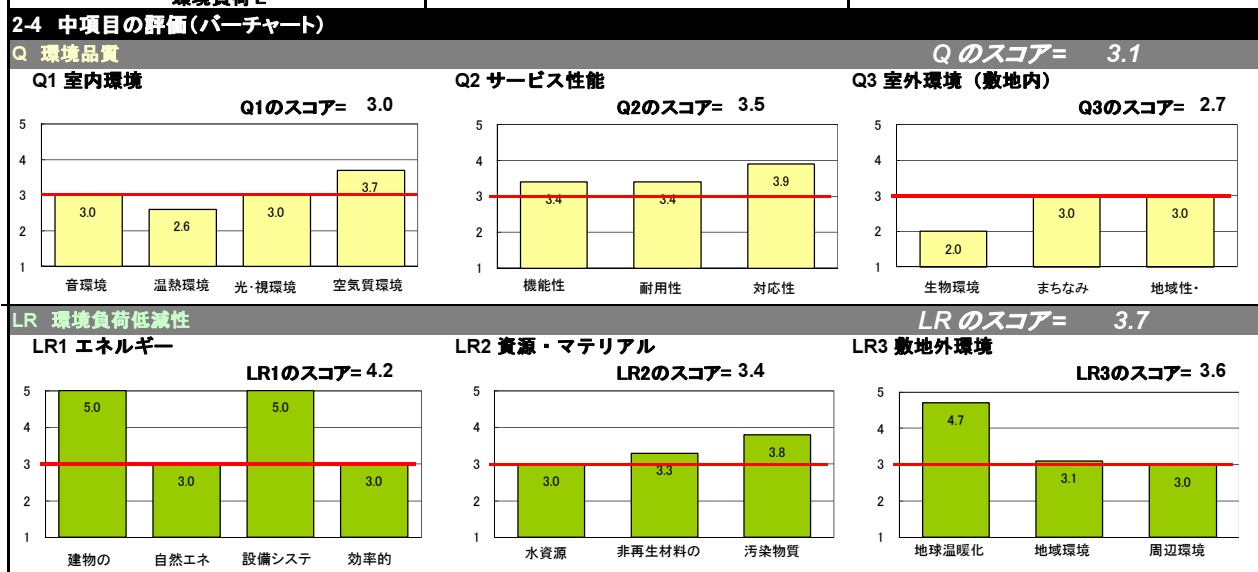
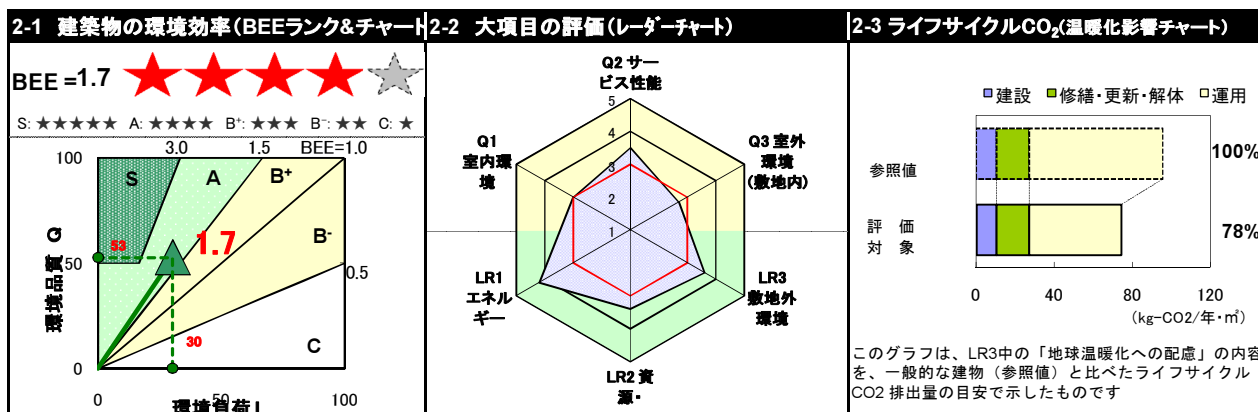
■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	臨床研究センター	階数	地上5F
建設地	京都府京都市左京区聖護院川原町	構造	S造
用途地域	1種中高層	平均居住人員	300 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年8月 予定	評価の実施日	2010年7月2日
敷地面積	79,851 m ²	作成者	(株) 内藤建築事務所
建築面積	957 m ²	確認日	2010年7月2日
延床面積	4,659 m ²	確認者	(株) 内藤建築事務所

外観パース等

図を貼り付けるときは

シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 自然エネルギーの活用などで環境負荷の低減を図り地球温暖化の防止に配慮する		・ 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・ 底を設けることで温熱負荷の低減をはかった	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・ バリアフリー、耐震性への配慮をおこなった	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・ 建物周りの緑化配慮をおこなった
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・ 屋上の外断熱をおこなった	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・ 再生クラッシュの利用等	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・ 騒音、振動の防止等

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される